

憲法記念下北駅伝競走大会

● 沿革

憲法記念下北駅伝競走大会は、戦前より大日本帝国海軍大湊要港部観桜会の一環として開催されていた駅伝大会が礎となっている。

1948（昭 23）年 5 月 5 日、日本国憲法発布を祝して、「第 1 回下北駅伝競走大会」として復活した。

当時の大会は、主要道であった宇田町三叉路から、現海上自衛隊大湊音楽隊による演奏先導にて入場行進を行い、大湊地方隊総監部前庭にて開会式が盛大に行われ、宇田～山田～田名部～山田～宇田～城ヶ沢～宇田の 6 区間のコースであった。

1954（昭 29）年第 7 回大会より憲法記念日の 5 月 3 日に、1960（昭 35）年第 12 回大会より「憲法記念下北駅伝競走大会」と改称している。

その後、むつ運動公園陸上競技場の竣工に伴い、同所をスタート・ゴールとする走路変更を余儀なくされたが、大湊、田名部両中心街を一巡するコースに大幅な変更はなく開催されている。

2011（平 23）年 3 月 11 日発生 of 東日本大震災の影響で開催中止も危ぶまれたが、第 1 回大会から中断のない大会を強行開催した。

このように、下北地方の春の一大風物詩となったこの大会は、「憲法駅伝」と呼ばれ、2007（平 19）年、第 60 回記念大会事業として、優勝旗 3 旗を新調することができるなど、市民より幅広く応援支持を得て定着している。

2017（平 29）年は、記念すべき第 70 回大会を迎えることとなった。国内においては、憲法記念と冠している大会としては最も歴史がある大会といわれている。

また、春の「憲法駅伝」と同様、秋の「恐山駅伝」は 1989（平元）年「恐山往復駅伝競走大会」と称し第 1 回大会が開催され、毎年 11 月 3 日文化の日に、恐山本坊円通寺を発着点として紅葉が眩しい見事な恐山総門までの街道で開催している。

春秋の駅伝の開催などの強化普及により、2013（平 25）年 9 月 1 日開催の第 21 回市町村対抗青森県民駅伝競走大会にて 8 回目の総合優勝を果たした「むつ市」チームは、6 連覇を果たすなど優秀な成績を成し遂げて「無敵艦隊」「王者」と称された。